

令和2年度（2020年度）第3回宝塚市国民健康保険運営協議会 会議要旨

日時：令和2年（2020年）12月23日（水）

午後1時30分から2時45分

場所：宝塚市役所2階 2-4・5会議室

議題1 宝塚市国民健康保険事業の財政運営について

令和3年度国保事業費納付金の仮算定結果を受け、市長から協議会へ国民健康保険税の税率等を据え置く旨諮問し、事務局から配布資料に基づき諮問内容を説明した。

<主な質疑・意見>

- （委員） 令和3年度と4年度の保険税収入のうち、例年数億円規模と大きい滞納分をどのように見込んでいるか示してほしい。
- （事務局） 令和3年度については約4億円を見込んでいる。
- （会長） 関連して、保険給付費の伸び率をどのように見込んでいるか示してほしい。
- （事務局） 県が出す保険給付費の平成30年度から令和2年度の3年間の平均伸び率で計算している。具体的な数値は次回お示しする。
- （委員） 令和6年度を目標に保険料水準を兵庫県下で統一することだが、医療費水準が低いにも関わらず所得水準が高いせいか現行高くなっている標準保険料率は、下がると期待していいのか。令和3年度から医療費水準を反映しないこともあり、年々高くなって負荷がかかってきている印象だが。その見通しによって財政調整基金の活用方針も変わってくる。
- （会長） 元々納付金は所得水準に応じて県内で按分されていたが、統一に向けて、医療費水準の反映をやめてインセンティブによるコントロールに切り替えている。
- （会長） 将来的な県下の保険料水準の統一と基金の運用とは分けて考えていいと思う。
- （委員） 基金枯渇後に赤字が見込まれる場合は、保険税率の改定だけで賄うのか、一般会計からの支援を受けられるのか。
- （事務局） 値上げの幅にもよるが、基本的には保険税率の改定だけで賄うことになる。
- （委員） 標準保険料率が上がってきていることを考えると、基金枯渇後に急激に保険税率を上げるのがいいのか懸念する。
- （委員） 保険税収入を考えるうえで、これまで以上に対策をして、滞納分の約20億円を全て徴収する方法はないのか。
- （事務局） 約20億円のうち、家計や財産などを考慮して徴収できない分、徴収の停止が必要なものがあり、その整理が他市ほどできていない。
- （会長） その整理をすることで、同じ収納額でも分母が変わることで収納率が上がり、保険者努力支援制度の評価も変わってくる。対策としては短期間で一気にやる必要がある。
- （委員） 収納担当の取組に対する評価を下げないためにも、抜本的な徴収停止のための整理が必要。
- （事務局） 徴収停止のための整理に加えて、督促状の送付や催告の電話による次年度持越の抑制、短期被保険者証や資格証明書の活用による滞納者との接触などに取り組むことで、滞納額を減らし、現年度の収納率向上につなげないといけない。
- （事務局） 併せて収納体制を見直し、保険税の徴収を他の市税と切り離して、賦課との連携強化を図る予定。
- （会長） 基金の運用方針によって諮問に対する答申が変わってくる。
また、コロナ禍で医療費が下がり、保険料の抑制につながると推測している。
- （事務局） 医療費について、現時点で7月診療分まで確認できており、累計と緊急事態宣言の期間中は下がっているが、宣言明けは宣言前の水準に戻っている。最終的にどこまで下がるか慎重に見極める必要がある。また、県の計算の考え方として直近の数年間の平均で見込んでいるが、今年度の医療費の反映は来年度以降にずれ込むと思われる。

報告 その他

事務局より、今後の運営協議会の日程について、会場の関係で再調整の旨説明。

<今後の日程>

第4回 令和3年1月下旬

主な内容 令和3年度の国民健康保険事業の財政運営について（答申予定）

（ 会 長 ） コロナ禍を考慮し、本日の運営協議会は早めに終わらせていただく。